第４回　貝塚市立地適正化計画等検討委員会　議事録（要約版）

日　時	令和４年９月 13 日（火）　14 時 30 分～16 時 30 分
場　所	市役所３階　公房会議室
出　席　者	委員 12 人
事　務　局	７人
会　議　次　第	1　第３回検討委員会について 2　・貝塚市立地適正化計画策定及び都市計画マスタープラン改定についての住民説明会について ・貝塚市立地適正化計画の策定に係る意見交換会について ・各種団体ヒアリングについて 3　都市計画マスタープランについて 4　誘導施策について

■住民説明会について

議長　　：ワークショップで得られた意見と計画案の都市機能誘導施設に大きな意見の違いはなかったという理解でよいか。

事務局　：地域の意見も考慮した計画案となっている。

議長　　：誘導施設についてこれをベースに進めさせていただく。

委員Ｆ　：ミーティング参加者は、どういった年齢の方が多かったのか。また、広報の方法はどういった形で行ったのか。

事務局　：年齢まで統計を取っていないが、概ね高齢の方が多かった。男女比で言えば、男性のほうが多かった。広報は、町会ごとの回覧、掲示、「広報かいづか」への掲載、市の LINE に登録されている方への周知、ホームページ掲載等を行った。

委員Ｆ　：水間鉄道の広告や観光協会の掲示板などを利用して、世代枠を広げたほうがよかったと思う。

議長　　：どこでワークショップをしても、若い方になかなか来ていただけない。幅広い意見を聞けるような仕組みづくりが今後の検討課題である。

委員Ｂ　：11 の小学校区を５つのエリアに分け意見交換会を実施したが、意見交換会で、地域ごとに意見の違いはあったのか。

事務局　：主要５駅（貝塚、二色の浜、和泉橋本、東貝塚、水間観音駅）がそれぞれのエリアに１つ入るようにエリア設定を行った。どの地区からも、駅を使わないという意見や貝塚駅に関する意見は多く出された。貝塚には家族で一日過ごせる場所がないとの意見をいただいた。

議長　　：自分の住んでいる近くにある駅周辺の誘導施設について話をしたのか、５つの駅周辺の誘導施設について議論したのか聞きたい。

事務局　：5つの駅周辺に対して意見をいただいた。

■都市計画マスタープランについて

委員Ａ　：都市計画マスタープランについて、印象としては、専門単語が多く表現の仕方が一般市民になじまないと思う。貝塚の魅力である農地や自然生態系のことや、また、それに対する課題が書かれてなくて、市街地開発を中心に書いている印象である。産業のことや生態系のこと、農地、環境、エネルギーのことなどについて抜けがあると感じる。

議長　　：総合計画を受けて都市計画でやれる範囲を位置づけていくことが求められる。都市づくりの目標あたりに、環境配慮型都市や生態系の話、農空間の話などを盛り込めないか、検討をお願いしたい。あと、平易な表現に関しても、可能な限り1度ご検討いただきたい。

委員Ｇ　：防災の方針に関して、もう少し踏み込めないか、特に津波に関して、我々のところも影響があると強く思っているので、津波に関する表示など市民に分かる環境づくりが喫緊の課題なので、防災対策を強化できないだろうか。また、数値目標の設定や目標を達成するために気を付けることを追記で書いておけば、計画から目標達成まで一貫性をもたせられる。

議長　　：土砂災害や各種災害に対するハザードマップは地域防災計画の中でつくられており、それを考えに盛り込んで、どこに居住を誘導していくのかを立地適正化計画で検討している。個別事業者の災害対策の話は都市計画マスタープランというより地域防災計画で取り扱う内容である。また、数値目標の設定について、都市計画マスタープランには具体的な事業名は出てこないので、具体的に書き込むことは難しいと思う。地域防災計画と都市計画マスタープランで取扱う範囲について担当課で整理しておく必要がある。

事務局　：地域防災計画には全般的な分野に対する防災対策が書かれているが、都市計画マスタープランの中で、まちづくりの観点から踏み込んで書けたらなと思っている。

委員Ｉ　：拠点に施設を集めたいとしているが、現状は車で移動することを前提として郊外型の施設が立地している。それとこの計画との関係をどのように捉えるのか。

事務局　：立地適正化計画を策定していく中でベースになっているのはコンパクト＋ネットワークであるが、意見交換会の中で高齢化が進む地域では郊外にある大型店舗に公共交通を誘導しているような事例があると聞いた。そういう事例も考慮しながら、柔軟な考え方も必要ではないかと考えている。

■誘導施策について

議長　　：（一つの）施策に対して事業や取組の数が少ないのではないか。

事務局　：代表的なものを記載している。もう少し肉付けできないか精査したい。

委員Ｇ　：新たな公共交通の検討に関して、「公共交通を補完する移動手段として、民間企業の送迎バスや福祉送迎バスの活用について検討します」とあるが、「民間企業の」は、民間企業によるということなのか、民間企業の送迎バスのことなのか。

事務局　：民間で使用されている送迎バス等の空き時間を利用して公共交通へ協力してもらおうとの主旨である。誤解のない表現となるように再検討したい。

委員Ｈ　：意見交換会で出された事例の件ですが、そこでは人口が拡散して人口密度の高いエリアがなくなったのでそうせざるを得なくなったのだと思う。基本的なところはコンパクト＋ネットワークの社会づくりであることを確認しておく必要がある。

事務局　：コンパクトなまちづくりにより、人口密度を上げるということは、やっていかなければいけない。また、貝塚は市域の約 4 割を森林が占めているため、山手の農村地域に対するサービスを存続していくことも考えないといけない。

議長　　：農用地の見直しと書いてあるが、その方向性が書かれていないところがある。農業を生かせるようなまちづくりをすると書くのか、農業は少し衰退しても、もう少し自然に戻すようなエリアにするのか、冒頭で書いておくことも考えたほうがいいのではないか。都市計画の中で書きづらい点もあると思うが、書けるところはできるだけ盛り込めたらという気がする。

委員Ａ　：どの地域でも地域核が必要なので、小学校区を中心にして、昔はお寺とかいろいろなものが結びついて地域核を形成していた。貝塚市には水間鉄道があるので、駅を活用して地域核を作ることを考えがちであるが、それに加えてそういう普変的な都市政策的な観点からも鉄道駅を活用できないか考えなければならない。世界普遍の都市計画があって、そういう視点の書き方をするとマスタープランが深くなる。

議長　　：本市の地勢や自然環境、地形や土地利用がベースになって、まちができたり農地ができたりするわけで、その辺の仕組みをどうやって維持していくのか。都市計画で何ができて、何ができないのかを見据えて、書けるところはしっかり書いていくことが重要である。向かう方向がわかりやすく表記されたマスタープランや立地適正化計画であればと願っている。

以上